

ひまわりの声

題字は高森政雄区連会会長

編集・発行 港南区連合町内会長連絡協議会



高森政雄港南区連合
町内会長連絡協議会会長

地域社会で“楽しい日常”の発見を!!

私は、自治会町内会長や役員の皆さんから、「自治会町内会の役員に男性の成り手がなく苦勞しています。全く男性は顔を出してくれません」という嘆き、苦勞話を耳にします。

現役時代に第一線で積極的に活躍なさっていた方々の中には、現役を引退し、地域社会での“生活”を開始したものの、地域社会での諸活動の参加に消極的になってしまう方もおいでのようです。

そこで、区連会としては、そのような豊富な経験や能力をお持ちの方々に、なんとか積極的に地域活動に参加していただき、理想の街づくりに御協力いただきたいのです。

現役引退後の人生は20年、30年と長いのです。どうか地域社会に溶け込むことにより、“楽しい日常”を発見していただきたいと切望しております。

平成23年 港南区新年賀詞交換会

新年の夢!! 平成23年を人々が“ぜひ住みたいと
憧れる街”港南区を実現していく第一歩としたい。
～308組織、730人の人々が参加～

平成23年1月5日、午前11時から港南スポーツセンターにおいて、恒例の港南区新年賀詞交換会が開催されました。

一般団体142組織、官公庁・公的機関58組織、自治会町内会・地区連合町内会108組織、以上合計308組織、参加者数は実に730人という大規模なものでした。

午前11時、横浜市歌を斉唱の後、主催者を代表して港南区連合町内会長連絡協議会一通称“区連会”高森政雄会長が登壇し、概ね次のような挨拶をしました。

「私たち港南区民は、今日まで、行政との表裏一体の関係を構築しつつ、“明るく元気 ひまわり港南”を合言葉とし、災害時における地域内での“助け合い活動”を一段と強化していくため“地域住民相互のつながり”づくりに鋭意努力してまいりまし



た。さて、新春には、更なる命題として“港南区の未来を担うことになる子どもたち”を私たちの知恵と汗を結集して育成していくことにより、誰もが“この街に住みたい 住み続けたい”と願うような港南区にしていきたいと切望致しております。」

次に登壇した大貫一幸港南区長は、「私たち港南区役所の重要な役割は、区民の皆さまが、安全に安心して生活をしていくことができる地域社会をつくることです。そのためには、各地域の

住民の皆さんがお互いに連携・協力していくことが必要であると考えております。地域住民相互の“支え合い”を、さらに進めていくためにも、多くの区民の皆さんが地域活動に積極的に参加したくなるよう、地域における諸活動を支援させていただき、“誰もが住みたくなくなるような港南区を実現していきたいと考えております。”と挨拶をしました。

その後、来賓として村田憲彦港南警察署長をはじめ

めとする官公庁・公的機関の代表者の方々が登壇、挨拶をされました。

港南台連合自治会吉岡彬氏の乾杯の発声で歓談が始まり、途中、林文子横浜市長のメッセージの代読があり、会は大いに盛り上がりしました。

12時に永野連合町内会長 平山文也氏の発声による万歳三唱をもって会は盛況のうちに終了しました。

日野第一連合町内会ふれあいフェスタ

「地域社会」こそ、区民の皆さんの楽しい生活の基盤です…。
—ふれあいフェスタはその典型の一つでしょう—



平成22年10月30日、日野第一連合町内会（高森政雄会長）が恒例の「ふれあいフェスタ」を吉原小学校で開催しました。当然のことながら、どの地域社会にも個性＝多様性があります。日野第一連合町内会の概要ですが…

.....

港南区のほぼ中央部に位置し、戸建住宅と小規模・中規模ながら超高級のマンションが混在する4,200弱の世帯（自治会町内会加入世帯）。以前は8単位自治会町内会で構成されていた標準的な地域なのですが、100年以上、200年以上という歴史を有する家系の人々と、鎌倉街道や環状二号線、横浜横須賀道路が整備されていくのに伴い移り住んだ人々などが混在している、非常に“多様性”のある地域とも言えます。

この多様性に“地域社会”としての一体感を加味したいと、最も伝統的雰囲気強い「日野第一吉原町内会」と「吉原町内会」が協議し、「吉原南町内会」「吉原東町内会」「吉原西町内会」「吉原中町内会」に4分割するという実に大胆な計画を策定し、平成22年4月1日に実現されました。したがって、今回の「ふれあいフェスタ」は“新生”日野第一連合町内会（10単位自治会町内会）としての最初の大イベント（通算4回目）であり、なんとしても大成功させたいものだったのです。

吉原小学校の校庭は一瞬にして、 楽しいテーマパークに変貌

さて、午前10時頃から取材を開始したのですが、人々の関心が非常に高く、受付開始の10時30分の段階で早くも入場者数が1,500人近くあり、活況を呈していました。

今回は、吉原小学校の校庭に、主催者・協賛者・港南区役所、港南警察署、港南消防署を含む後援者だけでも40組織余りが集結しました。

各種展示ブースと焼きそば・焼き鳥等々の屋台、おもちゃ屋さん、ゲームコーナー等々のテントが30張りも並び誠に賑やかでした。

11時にイベントがスタートしました。この時点で入場者数は2,000人を超えていました。セレモニーは主催者を代表する高森会長の挨拶から開始されました。

高森会長が挨拶 “地域交流のきっかけの場”

「地域社会が目指すところは、言うまでもなく、人々が安全に安心して、未来に期待しつつ生活していくことができる“まち”の実現であろうと考えています。現在の社会は、地域社会及び近隣住民との交流を「したくても出来ないのが現状です。」と嘆く人々が多くいます。

地域住民が総ぐるみで、安全で安心できる助け合い、支え合いの街づくりを進めてまいりたいのです。

本日のこのフェスタは、ただ単なるイベントではなく、人々同士が積極的に触れ合い、対話することにより“親しい仲間”となっていくための“地域交流の場”であると考えています。」

次に大貫港南区長と村田港南警察署長がそれぞれに登壇、大貫区長は「港南区役所では、安全で安心の“まち”の実現に向かい努力をなしている地域活動を担っている皆さまをさまざまな場面で支援していけるよう考えております」と挨拶。村田署長は「11月7日から14日まで横浜APECが開催される関係で、会場周辺地域の警備のために他地域の警察署から警察官が大動員されます。従って相対的に他地域の警察力が低下することになる可能性があります。そこで皆さまにお願いします。この間ぜひとも皆さまの“地域力”を持って皆さまの地域の安全と安心の維持に御協力いただきたいのです」と挨拶。

その後清水鐵夫区連会副会長をはじめとする各地域の地区連合町内会長が順次挨拶、11時40分、セレモニーは終了しました。この時点での入場者は実に3,000人を超え、そのうち6割程度が子どもたちであり、実に活気がありました。

セレモニー終了後、正午より、子どもたちが楽しみにしている港南中学校生徒による吹奏楽や野球ゲーム、大道芸等々の催し物が開演となりました。特に最大の“呼び物”と評判の吉原小学校の女子生徒20人によるマイフィットダンスは迫力満点であり、観客は大いに盛り上がりしました。累計の来場者数は3,000人を超え、大成功でした。

平成23年港南区消防出初式



はしご乗り演技の勇壮な姿に、子どもたちは目を輝かせて見ていました。

ふるさと ころなん 冬の風物詩

～子どもたちの声が
聞こえる風景～

学問の神様として有名な菅原道真公が祀られ「天神さん」と親しまれています。元旦の参拝、七五三祝、受験合格祈願は年々賑わいを増しています。

永野連合町内会 「永谷天満宮」



沢ヶ谷自治会 (港南台連合自治会)



子どもたちを中心に100人が参加。地域に定着した行事となっています。

日野第三町内会 (日野連合町内会)

「もちつき大会」



「子どもたちに餅つき体験を」と平成6年から子供会が実施。近年は老人会も参加し、世代間交流がますます深まっています。

野庭住宅第六自治会 (野庭住宅連合自治会) 「年末夜警」



子どもが主役の防犯パトロールで、32年前から実施。午後7時から、啓発用語を言いながら拍子木をたたき歩きます。

日野南連合自治会「新年子ども会【お楽しみ会】」



平成23年1月15日、午前10時より日野南小学校において第12回「新年子ども会【お楽しみ会】」が開催されました。

当日は、大貫港南区長、光田栄区長、高森区連会会長、清水区連会副会長をはじめとする多数の御来賓、小学生427人、未就学児100人、その父兄と一般参加者約500人以上、計1,000人超の人々の参加があり、盛会でした。

この会は、盛大なことで“有名”な「富士見夏祭り」に匹敵する“冬の大イベント”に発展させようと5年前に日野南連合自治会（淡路伸勝会長）が主催者となったもので、年々、イベントの内容が豊富・多様となり、冬の恒例行事として確立しつつあります。



「港南区健康ランニング大会」

平成23年1月16日(日)、雲ひとつない青空の下、港南区の未来を担う小・中学生921人を含む、約1500人の参加を得て第32回港南区健康ランニング大会が開催されました。

地域に役立つ情報コーナー

港南区役所で聞きました。

まちのルールを地域で作ろう!!

私たちの住んでいる「まち」について、住みよい住環境をこれからも維持していくために地域共通のルールを作りたいと考えている方も多いかと思います。そこで今回は、まちのルールづくりの支援について区政推進課まちづくり調整担当の加藤係長にお聞きしました。

皆さんがお住まいの地域で、「環境がよく、ゆとりある戸建住宅地なのにマンションのような大きな建物が建ってしまうかも…」などの心配や問題があるかと思えます。なぜこのようなことが起きるのでしょうか？土地の使い方や建物の建て方の基準は都市計画法や建築基準法などで決まっており、基準に合っていれば建物を建てることのできるからです。

そこで地域の皆さんが話し合い「まちのルール」を決めることにより、住宅地の環境を守り、よりよくすることができる制度（地区計画、建築協定など）があります。例えば、隣どうしの家が近づき過ぎないようにお互いに離して家を建てることや、建物の高さを決

めて周りと比べて大きな建物が建たないようにするなどのルールがあります。

このような建物や敷地に関する「まちのルール」を地域としてもつくりたい！とお考えであれば、区政推進課にご相談ください。地域での勉強会から組織づくり、ルールの検討について建築・都市計画の専門家などを派遣し地域を支援します。

とのことでした。

【事務局から】

「まちのルール」としては、他にも、敷地分割を防止して建物がひしめきあわないようにするルールや生垣や樹木で緑を増やすルールなどがあるとのことでした。皆さんがお住まいの地域でも、より良い環境の維持のためにルールづくりの勉強を始めてはいかがでしょうか。

●問合せ

港南区役所区政推進課

(港南区役所36番窓口) 電話847-8327

○次号の「区連会会報「ひまわりの声」No.8」は…

- 地域に心を傾ける～地区連合町内会の活動・人物紹介～
- 港南区を彩るイベント～自治会町内会が行う地域イベントや、祭りの紹介

等々です。お楽しみに!!

編集 後記

■地域社会と行政のコラボレーションがますます強化されつつあるという現状を踏まえ、その地域活動の盛り上がり等々を紹介しました。

■本紙および区連会へのご意見・ご要望は区連会事務局までお寄せください。 ■区連会会報担当 遠藤良一／中島淑子、

編集委員 松田英樹／筒井英子
(横浜市港南区港南中央通10-1
港南区役所地域振興課内
☎847-8391 FAX842-8193)